

令和8年(2026年)度年間授業計画表					
学年	3 年	学科	全学科	必選	共通
教科	国語	科目	国語表現	単位	3 単位
使用教材	国語表現 大修館書店				
学習目標	① 国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高める。 ② 思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨く。 ③ 基礎事項の繰り返し学習を重視し、国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。				
単元と内容					
1 学 期	{言葉と出会う} ・言葉と表記 ・整った文を書く ・相手に応じた言葉遣い ・わかりやすい文を書く ・文のつながり {自己PRと面接} ・自分を見つめて ・効果的な自己PR ・将来の自分を考えよう ・志望理由を書こう ・自己推薦書や学修計画書を書く・面接にチャレンジ	・表記の決まりを意識し、正しく書く。			
		・漢字や慣用表現を正しく使う。			
		・話し言葉と書き言葉の違いや、その使い分けについて理解する。			
		・長すぎる文を避け、わかりやすい文にする方法を理解する。			
		・経験から得たことや学んだこと、自分の長所などを考える。 ・就きたい職業に就くために必要なことを、適切な方法で調べる。 ・志望先に提出する書類に求められていることを適切に理解する。			
2 学 期	{メディアを駆使する} ・通信文を書き分ける ・電話を使いこなす ・電子メールを活用しよう ・メディアと情報 {会話・議論・発表} ・相手や場面に応じた会話 ・スピーチをしよう {小論文・レポート入門} ・小論文とは何か ・文章を読み取って書く ・発想を広げて書く ・レポートを書く	・さまざまな通信文の形式を理解する。			
		・初対面や目上の相手に対する電話での話し方を理解する。			
		・電子メールを活用する上でのエチケットを理解する。			
		・情報が編集されていることを理解する。			
		・小論文の基本的な書き方を理解する。 ・発想を広げるための方法を理解する。			
3 学 期	{表現を楽しむ} ・日常生活の正しい過ごし方 ・「わが町自慢」のパンフレット作り ・エッセイを書こう	・読者を意識して、物事の手順をわかりやすく書いて伝える。			
		・接続表現や順序を表す言葉などを効果的に用いる。			
		・読者を意識し、ほかのエッセイを参考にしながら、構成、文体、表現			
		などを意識してエッセイを書く。			
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技能	・表記の決まりを意識し、正しく書く。・漢字や慣用表現を正しく使う。・説得力のある主張をするために、必要な情報を集めたり、構成や説明資料を工夫したりする。			
II	思考・判断・表現	・文脈による文のつながりを理解する。・取り上げる内容は話し方を工夫して、わかりやすくする。相手に応じた適切な言葉遣いや応答のしかたを理解する。			
III	主体的に学習に取り組む態度	・正しい表記や語彙を豊かにすることについて積極的に取り組もうとしている。 ・練習問題を解くことをとおして、文を整えて書く学習に対して積極的に取り組もうとしている。			
評価 方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		年間時数
	・観察 ・ワークシート ・評価テスト		・観察 ・ワークシート ・評価テスト		予定
					105 時間
					実施
置賜農業 育てる能力		①健康 ②自己肯定感 ③忍耐力 ④主体性 ⑤生命 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑧誠実 ⑨生きる力 ⑩知識技能 ⑪地域づくり ⑫実践奉仕 ⑬社会貢献			

令和8年(2026年)度年間授業計画表					
学年	3 年	学科	全学科	必選	必履修
教科	地歴・公民	科目	歴史総合	単位	2 単位
使用教材	第一学習社「高等学校 改訂版 新歴史総合 過去との対話、つなぐ未来」 帝国書院「明解 歴史総合図説シンフォニア」				
学習目標	① 近現代の諸事象について、世界と日本の過去と現在を考察・理解し、諸資料から様々な情報を調べまとめる技能を身に付ける。 ② 事象の意味や意義、特色などについて、歴史的な視点に着目し、概念などを活用して考察、構想、説明、議論する力を養う。 ③ 諸課題に主体的に追及、解決しようとする態度を養い、多面的・多角的な考察・理解から国民としての自覚や他国尊重の大切さを自覚する。				
単元と内容					
1 学期	第1章 近代化と私たち 1 工業化の進展と国民国家の建設 2 アジア諸国の変貌と日本の開国 3 帝国主義の発展	国際商業の発展はヨーロッパの人々の生活や考え方をどう変え			
		たのか、なぜ世界で最初の産業革命はイギリスでおこったのか、			
		アメリカ合衆国の誕生経緯、自由と平等の精神はどのように広が			
		ったのか、イギリスの19世紀における影響力とは、後発国での			
		国民国家の形成、アメリカ合衆国における国民国家の形成			
2 学期	第2章 国際秩序の変化や大衆化と私たち 1 第一次世界大戦と大衆社会 2 経済危機と第二次世界大戦 3 第二次世界大戦後の世界と日本	帝国主義の成立・発展、日清戦争・日露戦争、第一次世界大戦			
		はこれまでの戦争とどのように異なるのか、第一次世界大戦後の			
		国際秩序、世界恐慌時の世界の対応、ファシズムの台頭、			
		日本・ドイツ・イタリアの対外侵略、第二次世界大戦の勃発と新しい			
		国際秩序の形成			
3 学期	第3章 1 冷戦と脱植民地化・第三世界の台頭 2 世界秩序の変容と日本	冷戦が与えた影響とは、アジア・アフリカの国々の独立、核兵器			
		の危機に対する国際協調の動き、ドルショックと石油危機が世界			
		に与えた影響、冷戦の終結とグローバル化			
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技能	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解して、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめることができる。			
II	思考・判断・表現	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察し、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想することができる。考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。			
III	主体的に学習に取り組む態度	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとしていて、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについての自覚などを深めようとしている。			
評価方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		年間時数
	1 定期テストおよび小テストの点数 2 授業プリントなどへの取り組み状況		1 定期テストおよび小テストの点数 2 授業プリントなどへの取り組み状況 3 発表活動 (まとめる・伝える)		予定
					70 時間
					実施
置賜農業育てる能力		①健康 ②自己肯定感 ③忍耐力 ④主体性 ⑤生命 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑧誠実 ⑨生きる力 ⑩知識技能 ⑪地域づくり ⑫実践奉仕 ⑬社会貢献			

令和8年(2026年)度年間授業計画表					
学年	3 年	学科	全学科	必選	共通
教科	数学	科目	数学Ⅱ	単位	2 単位
使用教材	教科書:高校数学Ⅱ(実教出版) 副教材:スタディノート数学Ⅱ(実教出版)、サブノート数学Ⅱ(実教出版)				
学習目標	①いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 ②数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。 ③数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。				
単元と内容					
1 学 期	ウォームアップ 3章 いろいろな関数 (期末テスト)		基礎力診断テスト		
			計算練習		
			三角関数		
			加法定理、弧度法		
2 学 期	3章 いろいろな関数 (中間テスト) (期末テスト)		数学Ⅰまでの復習		
			指数関数		
			対数関数		
3 学 期	4章 微分と積分 (学年末テスト)		微分の考え		
			積分の考え		
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技能	○いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ○事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。			
Ⅱ	思考・判断・表現	○数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を身に付けている。			
Ⅲ	主体的に学習に取り組む態度	○数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ○問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。			
評価方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		年間時数
	授業の取組(ノート、プリント) 小テスト、定期テスト(計算)		授業の取組(発表) 定期テスト(記述)		予定
					70時間
					実施
育てる能力		③忍耐力 ④主体性 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑧誠実 ⑨生きる力 ⑩知識技能 ⑬社会貢献			

令和8年(2026年)度年間授業計画表						
学年	3学年	学科	全学科	必選	選択必履修	
教科	理科	科目	科学と人間生活	単位	2単位	
使用教材	教科書:科学と人間生活 新訂版 (実教出版) 副教材:アクセスノート科学と人間生活 改訂版 (実教出版)					
学習目標	① 自然の事物・現象についての理解を深め, 科学的な自然観を育成する。 ② 理科の見方・考え方を働かせ, 科学的に探究する能力と態度を育てる。 ③ 自然と人間生活との関わりや科学技術が人間生活に果たしてきた役割を理解する。					
単元と内容						
1 学期	1章 科学と技術の発展 2章 物質の科学 1節 材料とその再利用 2節 食品と衣料	・現代の科学技術文明が科学によって支えられ, 発展してきたこと, 科学技術と科学を切り離して考えることができないことを理解する。				
		・農業には, 生物や気象などさまざまな自然現象が関連しており, 科学技術を利用することで農業が発展してきたことを理解する。				
		・身の回りの天然の物質や人工の物質がどのような成り立ちでできているか確認する。				
		・食品や衣料を構成する物質の種類や性質, その成り立ちについて理解する。				
2 学期	3章 生命の科学 1節 ヒトの生命現象 2節 微生物とその利用 4章 光や熱の科学 1節 熱の性質とその利用 2節 光の性質とその利用	・それぞれの材料や食品, 衣料の特徴を把握し, 安全で快適な生活のための利用法を理解する。				
		・グラフの読み取りを通して血糖濃度が調節されていることに気づき, 調節にかかわるホルモンの働きを理解する。				
		・白血球のはたらきや抗体による免疫の仕組み, およびその仕組みが予防接種にいかされていることを理解する。				
		・ヒトの目の構造や光刺激の受容のしくみ, 明暗順応や遠近調節について実験等を通して理解する。				
		・空気中の微生物の培養や水中の微生物の観察を通し, 身近に微生物がいることに気づくとともに, 微生物の種類について学習する。				
		・微生物は, 医薬品を作ることに役立っていることや遺伝子組換えによりつくられる医薬品について学習する。				
3 学期	5章 宇宙や地球の科学 1節 太陽と地球 2節 自然景観と自然災害 6章 これからの科学と人間生活	・熱の概念およびエネルギーとのかかわり, 光の性質について実験を通して理解する。				
		・太陽や星の天球上の運動を, 地球の運動から理解し, 太陽の運行や月の満ち欠けが時や暦などに関わっていることを学習する。				
		・太陽の放射エネルギーの高度による変化を理解し, 太陽の放射エネルギーが地球の大気などに影響を及ぼしていることを学習する。				
		・身近な地域の自然景観を, 流水の作用や火山活動による環境の変化と関連付けて学習する。				
日本列島の特徴と関連づけながら火山や地震のメカニズムを学習し, 火山活動や起こる可能性のある地震のタイプや規模などを確認する。						
評 価						
評価の観点		評価の趣旨				
I	知識・技能	自然や科学技術と人間生活との関わりについて理解している。また, 科学的に探究するために必要な観察・実験に関する技能を身に付けている。				
II	思考・判断・表現	人間生活と関連のある自然の事物や現象中に問題を見出し, 見通しをもって観察・調査等を行うことができる。また, 物事を実証的・論理的に考察・分析し, 表現することができる。				
III	主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に進んで関わり, 科学的に探究しようとする態度が養われている。科学技術の発展と人間生活との関わりについて興味・関心を高めている。				
評価方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		観点Ⅲ	年間時数
	○定期テスト(年4回) ○小テスト ○授業プリント・ノート ○問題演習 ○実験操作 ○レポート		○定期テスト(年4回) ○問題演習 ○レポート ○発表		○定期テスト(年4回) ○授業態度 ○授業プリント・ノート ○発表 ○実験 ○課題(宿題)	予定
						70 時間
						実施
置賜農業育てる能力		①健康 ②自己肯定感 ③忍耐力 ④主体性 ⑤生命 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑧誠実 ⑨生きる力 ⑩知識技能 ⑪地域づくり ⑫実践奉仕 ⑬社会貢献				

令和8年(2026年)度年間授業計画表					
学年	3 年	学科	全学科	必選	必履修
教科	保健体育	科目	体育	単位	2 単位
使用教材	現代高等保健体育 大修館書店				
学習目標	① 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。 ② 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 ③ 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。				
単元と内容					
1 学期	体育理論 体づくり運動 選択Ⅰ(武道・ダンス)	・スポーツの歴史や意義、価値、影響について学ぶ。			
		・体力や生活に応じて、体の調子を整えるなどの体ほぐしの運動と自分の体力を高める運動を行う。			
		・ボールを用いて、集団的技能や個人的技能を発揮し、練習を工夫し技能向上をする。			
2 学期	選択Ⅱ(バレーボール・バスケットボール) 選択Ⅲ(バドミントン・卓球)	・ボールを用いて、集団的技能や個人的技能を発揮し、練習を工夫し技能向上をする。			
		・集団的技能や個人的技能を発揮し、練習を工夫し技能向上をする。			
3 学期	スキー	・スキーターン等の技能を修得し、斜面や雪の状態に適応できる。			
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技能	各種の運動の特性に応じた技能を身に付け、ルールなどが理解できる。			
Ⅱ	思考・判断・表現	運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断し、他者に伝えている。			
Ⅲ	主体的に学習に取り組む態度	学習に主体的に取り組もうとしている。健康・安全を確保している。			
評価 方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		年間時数
	テスト(実技・ペーパー) 授業時の観察		提出物 授業時の発言		授業時の観察
					提出物
					70 時間
					実施
置賜農業育てる能力		①健康 ②自己肯定感 ③忍耐力 ④主体性 ⑤生命 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑪地域づくり ⑫実践奉仕 ⑬社会貢献			

令和8年(2026年)度年間授業計画表					
学年	3 年	学科	全学科	必選	共通
教科	英語	科目	英語コミュニケーションⅡ	単位	2 単位
使用教材	COMET English Communication Ⅱ 数研出版				
学習目標	① 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況等に応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。				
	② コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。				
	③ 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。				
単元と内容					
1 学 期	基礎力診断テスト Lesson6 The High School Salon Lesson7 You Can Make a Difference 1学期末テスト	単 語 帳 も 授 業 内 で 活 用	就きたい職業を英語で述べる		
			[助動詞+have+過去分詞]		
			環境のためにできることを英語で述べる		
			[過去完了形]		
2 学 期	課題テスト Lesson8 Nudge Lesson9 The Father of Braille Blocks 2学期中間テスト Lesson11 The Vancouver Asah+C16i 2学期末テスト		小さな工夫で人を動かす [関係代名詞what]		
			だれもが暮らしやすい社会について英語で述べる		
			[関係副詞]		
			人権の問題について英語で述べる [知覚動詞]		
3 学 期	Lesson12 From Small Companies to the World 学年末テスト				
			日本で開発・改良された優れた製品を英語で紹介する		
			[仮定法]		
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技能	音声・句読法・単語や慣用表現・文構造や文法事項が身に付いている。 実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能が身に付いている。			
Ⅱ	思考・判断・表現	日常的な話題や社会的な話題について文章を読み取り、概要や要点を把握することができる。伝える内容を整理し、英語で話したり書いたりして自分自身の考えなどを伝え合うことができる。			
Ⅲ	主体的に学習に取り組む態度	英語や国内外の文化の違いに興味を持ち、その習得と理解に向けて意欲的に取り組むとともに実際に活用しようとする実践的な態度が身に付いている。			
評価方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		年間時数
	授業プリント (発表原稿含む) 定期テスト 実技テスト(音読・暗唱)		定期テスト 実技テスト(スピーチなど)		予定
					70 時間
					実施
置賜農業育てる能力		②自己肯定感 ④主体性 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑩知識技能			

令和8年(2026年)度年間授業計画表					
学年	3 年	学科	全学科	必選	必履修
教科	農業	科目	課題研究	単位	4 単位
使用教材	各分野の教科書				
学習目標	① 農業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身につける。 ② 農業に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として解決策を探究し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 ③ 課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。				
1 学期	テーマ設定・年間計画立案 調査・研究・実験・作品製作等・実習・ 発表準備(まとめ)・校内プロジェクト発表会	グループで興味・関心、進路希望に応じて、農業に関する研究テーマを設定する。			
		課題を整理し、課題解決に向けた調査、研究、実験等に取り組む。			
		作品製作においては、成果物を各分野に関連するコンテストやコンクールへ応募することも検討する。			
		発表会に向けてグループで協力して準備を進める。			
2 学期	調査・研究・実験・作品制作等・実習・ 発表準備(まとめ)・県プロジェクト発表会 研究集録作成	課題を整理し、課題解決に向けた調査、研究、実験等に取り組む。			
		作品制作においては、成果物を各分野に関連するコンテストやコンクールへ応募することも検討する。			
		発表会に向けてグループで協力して準備を進める。			
		次年度に向けての課題を整理する。			
3 学期	研究集録作成 校内発表会	次年度の校内発表会に向けてこれまでの活動やデータを整理する。			
		後輩へ研究の引き継ぎを意識して研究をまとめる。			
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技術	農業の各分野について体系的・系統的に理解し、相互に関連付けられた技術を身につけている。			
II	思考・判断・表現	農業に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として解決策を探究し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力や態度が身についている。			
III	主体的に学習に取り組む態度	課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度が身についている。			
評価方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ	観点Ⅲ	年間時数
	・活動の様子 ・記録、プレゼンテーション ・発表力		・活動の様子 ・記録、プレゼンテーション ・発表力 ・提出物	・活動の様子 ・出席状況、態度 ・課題提出状況	予定
					140 時間
					実施
置賜農業育てる能力		①健康 ②自己肯定感 ③忍耐力 ④主体性 ⑤生命 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑧誠実 ⑨生きる力 ⑩知識技能 ⑪地域づくり ⑫実践奉仕 ⑬社会貢献			

令和8年(2026年)度年間授業計画表					
学年	3 年	学科	食料生産経営科	必選	
教科	農業	科目	作物	単位	2 単位
使用教材	作物 実教出版				
学習目標	① 作物の生理・生態に基づいた高度な栽培技術を修得する。 ② 地域資源である「消化液」を用いた比較実験を通じ、データ分析能力、および循環型農業への理解を深める。 ③ 農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。				
単元と内容					
1 学期	ジャガイモの生理と種付け 生育初期の管理と調査	種芋の休眠打破、浴光催芽の理論			
		消化液の成分特製			
		ジャガイモの萌芽生理と初期生育			
		中耕・培土の意義			
2 学期	塊茎の形成と肥大 収穫・調製と品質評価 稲の生理生態と分けつ	塊茎形成のメカニズムとストロン(匍匐枝)の役割			
		収穫適期の判定と休眠、デンプン価(比重)の理論			
		イネの形態と分けつ体系			
		幼穂形成期の生理			
3 学期	登熟と収量構成要素 米の品質・食味と流通 作付体系と資源循環	登熟歩合と千粒重の決定要因			
		米の成分(アミロース等)と食味評価			
		連作障害の回避と輪作体系			
		緑肥と地域資源の活用			
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技術	作物の生産と経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術が身に付いている。			
II	思考・判断・表現	作物の生産と経営に関する課題を発見し、農業や関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力が身に付いている。			
III	主体的に学習に取り組む態度	作物の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度が身に付いている。			
評価方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		年間時数
	学習状況の観察、記述の点検(ノート、ワークシート等)、定期考査、小テスト		学習状況の観察(発表等のパフォーマンスの評価)、記述の点検(ノート、ワークシート等)、定期考査		予定
					70 時間
					実施
置賜農業育てる能力		①健康 ②自己肯定感 ③忍耐力 ④主体性 ⑤生命 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑧誠実 ⑨生きる力 ⑩知識技能 ⑪地域づくり ⑫実践奉仕 ⑬社会貢献			

令和8年(2026年)度年間授業計画表					
学年	3 年	学科	食料生産経営科	必選	
教科	農業	科目	畜産	単位	2 単位
使用教材	畜産 実教出版				
学習目標	①家畜の飼育と畜産経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 ②家畜の飼育と畜産経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ③家畜の飼育と畜産経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。				
単元と内容					
1 学期	第4章 家畜の飼育 3酪農 【実習】家畜の飼養管理	・乳牛の特性			
		・乳牛の品種、選び方			
		・乳牛の繁殖			
		・酪農経営			
2 学期	第4章 家畜の飼育 4肉牛の飼育 牛の疾病、衛生管理 【実習】家畜の飼養管理、自給飼料の製造	・肉牛の特性			
		・肉牛の品種、選び方			
		・肉牛の繁殖、育成			
		・繁殖経営、肥育経営、一貫経営			
3 学期	第5章 畜産と経営 1畜産経営の基礎 畜産経営の改善 【実習】家畜の飼養管理	2	・畜産経営の収益構造		
			・価格の変動		
			・市場(子牛、枝肉)		
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技術	家畜の生産や日本の畜産業の概要について理解している。			
II	思考・判断・表現	安全な畜産物の生産における課題を発見し、合理的かつ創造的な解決に向けて思考し、他者に伝えることができる。			
III	主体的に学習に取り組む態度	安全な畜産物の生産、品質の向上に向けて主体的にかつ協働的に取り組んでいる。			
評価方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		年間時数
	定期テスト ワークシート		ワークシート 発表 実習		予定
					70 時間
					実施
置賜農業育てる能力		①健康 ②自己肯定感 ③忍耐力 ④主体性 ⑤生命 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑨生きる力 ⑩知識技能 ⑪地域づくり ⑫実践奉仕 ⑬社会貢献			

令和8年(2026年)度年間授業計画表					
学年	3 年	学科	食料生産経営科	必選	
教科	農業	科目	農業経営	単位	2 単位
使用教材	農業経営 実教出版				
学習目標	① 日本と世界の農業経営の特徴・違いを理解する。 ② 各地域に適合した農業経営の設計と運営に必要な知識を身に付ける。 ③ 農業経営とマーケティングに必要な知識、能力を身に付ける。				
単元と内容					
1 学期	農業経営を学ぶにあたって 農業の動向と農業経営 農業のマネジメント	農業経営とプロジェクト学習			
		日本と世界の農業、農業経営の動向			
		食料消費の動向と社会経済環境			
		農業マネジメント、生産のマネジメント			
		組織のマネジメント			
2 学期	農業のマネジメント 農業のマーケティング	会計のマネジメント			
		農産物の原価計算			
		リスクのマネジメント			
		農業マーケティングの概要			
		農業のマーケティング戦略			
		農産物のブランド化			
3 学期	農業の経営のマーケティング活動 農業経営・マーケティングの実践	市場調査と環境分析			
		市場調査・環境分析の進め方			
		農業経営の設計と診断			
		農業経営の実践例			
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技術	農業経営について体系的系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。			
II	思考・判断・表現	農業経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に課題を解決する力が身についている。			
III	主体的に学習に取り組む態度	農業経営のマネジメントやマーケティングが経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興に主体的かつ協同的に取り組む態度を身に付けている。			
評価方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		年間時数
	学習状況の観察、記述の点検(ノート、ワークシート等)、定期考査、小テスト		学習状況の観察、記述の点検(ノート、ワークシート等)、定期考査		予定
					70 時間
					実施
置賜農業育てる能力		①健康 ②自己肯定感 ③忍耐力 ④主体性 ⑤生命 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑧誠実 ⑨生きる力 ⑩知識技能 ⑪地域づくり ⑫実践奉仕 ⑬社会貢献			

令和8年(2026年)度年間授業計画表					
学年	3 年	学科	農業資源活用科	必選	
教科	農業	科目	地域資源活用	単位	2 単位
使用教材	実教出版 地域資源活用				
学習目標	①地域資源の活用について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につける力を養う。 ②地域の自然、文化、産業等の資源を理解・再発見し、特産品開発、観光振興、マーケティング、地域課題解決への活用方法を実践的に養う。 ③農業・農村の多面的な価値創造、ブランディング手法、持続可能な地域連携の手法を習得する態度を養う。				
単元と内容					
1 学 期	第1章 地域資源活用とは 第2章 農山村社会の変化と地域振興 第3章 地域資源活用の意義と役割 1節 地域資源の魅力と価値	・農山村の意義と役割、地域資源活用の意義を学ぶ。			
		・地域資源の特性と活用方法を学ぶ。			
		・自治体で行なっている地域活性化の施策・取り組み、その方法を学ぶ。			
		・地域資源の様々な活用方法を考える。			
2 学 期	第4章 地域資源活用の意義と役割 1節 地域振興に向けた施策と取組 2節 異業種連携と商品価値の創造 3節 地域資源活用の実践と課題	・地域資源の発見・活用・評価の事例を学ぶ。			
		・都市と農山村の共生・対流について理解する。			
		・グリーンツーリズムについて理解する。			
		・商品開発について学ぶ。			
		・人や地域の連携について学び、対人サービスやマナーを身につける。			
3 学 期	第5章 地域資源活用のマーケティングとブランド づくりについて学ぶ。 1節 情報の活用と発信	・地域資源のブランドづくりを学ぶ。			
		・地域資源のマーケット情報の収集・調査方法を学ぶ。			
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技術	地域資源の活用について体系的・系統的に理解し、関連する技術が身についている。			
II	思考・判断・表現	地域資源の活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力が身についている。			
III	主体的に学習に取り組む態度	地域資源の活用について新たな価値の創造に寄与できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的にとり組む態度が身についている。			
評価 方法	観点 I		観点 II		年間時数
	定期テスト 実習		定期テスト 実習 提出物		授業の取組 (態度、出席状況、協働性) 提出物
					70 時間
					実施
置賜農業 育てる能力		①健康 ②自己肯定感 ③忍耐力 ④主体性 ⑤生命 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑧誠実 ⑨生きる力 ⑩知識技能 ⑪地域づくり ⑫実践奉仕 ⑬社会貢献			

令和8年(2026年)度年間授業計画表					
学年	3 年	学科	農業資源活用科	必選	
教科	農業	科目	野菜	単位	2 単位
使用教材	野菜 実教出版				
学習目標	① 野菜の生産と経営に必要な知識と技術を習得し、野菜の特性や生産に適した環境を理解する。 ② 各種野菜の品質と生産性の向上について理解し、経営の改善を図る能力と態度を学ぶ。				
単元と内容					
1 学期	☆野菜栽培について 第1章 野菜生産の役割と動向 ○野菜苗の育苗と販売 1 野菜の種類と特徴 第2章 野菜の生育と栽培環境の調節技術 ○夏野菜の管理 1 野菜の生育と生理 ○夏野菜の収穫と調整		○温室・ほ場の野菜栽培の学習に意欲的に取り組むことができる。		
			○野菜生産と育苗について理解する。		
			○野菜生産と育苗が、野菜の品質を左右することを説明できる。		
2 学期	2 野菜の栽培環境と生育調整 ○秋野菜の苗準備と管理作業 第4章 果実を利用する野菜の栽培 ○キュウリ、スイカ、ナス等 第5章 葉や花茎を利用する野菜の栽培 ○キャベツ、ハクサイ、ブロッコリー等の管理作業 ○秋野菜の収穫と調整 ○温室管理作業		○温室・ほ場の野菜栽培の学習に意欲的に取り組むことができる。		
			○基本的な栽培の知識を理解し、その技術を習得できる。		
			○収穫・調製の仕方、販売方法などを作物ごとに説明することができる。		
3 学期	第6章 根を利用する野菜の栽培 ○ダイコン、ニンジン 1年間の野菜学習のまとめ		○基本的な知識・技術を理解できる。		
			○温室・ほ場の野菜栽培の学習に意欲的に取り組むことができる。		
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技術	野菜の生産性と品質の向上を図るために、栽培技術の習得に努め、経営についても体系的に理解する。			
II	思考・判断・表現	生産と経営に関する課題について意見を述べ、改善策を指導者と共に話し合うことができる。			
III	主体的に学習に取り組む態度	生産技術と経営について関心を持ち、経営を発展させるために品質の向上を目指して取り組むことができる。			
評価 方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		年間時数
	記述の確認(ノート) 定期考査 口頭試問による確認 (実技試験)		定期考査 行動の記録 (改善点を見出す意見を評価)		予定
					70 時間
					実施
置賜農業 育てる能力		①健康 ②自己肯定感 ③忍耐力 ④主体性 ⑤生命 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑧誠実 ⑨生きる力 ⑩知識技能 ⑪地域づくり ⑫実践奉仕 ⑬社会貢献			

令和8年(2026年)度年間授業計画表					
学年	3 年	学科	農業資源活用科	必選	
教科	農業	科目	生物活用	単位	2 単位
使用教材	生物活用 実教出版				
学習目標	① 生物活用について理解するとともに、関連する技術を身に付ける。 ② 課題を発見し、農業に携わるものとして合理的・創造的に解決する力を養う。 ③ 生物の特性を活用し、社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。				
単元と内容					
1 学期	動物の飼育と活用 生物活用の実践	動物と人間生活			
		ウサギの飼育と活用			
		交流活動の心構え			
		教材動物の飼育管理と動物介在活動実践			
2 学期	動物の飼育と活用 生物を活用した療法 生物活用の実践(動物を用いた活動)	ウマの飼育と活用			
		ハムスター、モルモットなどの飼育と活用			
		園芸療法・動物介療法			
		教材動物の飼育管理と動物介在活動実践			
3 学期	動物の飼育と活用	イヌ・ネコの飼育と活用			
		教材動物の飼育管理			
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技術	生物活用について体系的系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。			
II	思考・判断・表現	生物活動における諸活動に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に課題を解決する力が身に付いている。			
III	主体的に学習に取り組む態度	生物活用について、生物の特性を活用し生活の質の向上につながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的行動的に取り組む態度が見られる。			
評価方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		年間時数
	学習状況の観察(教材動物管理における技術など)、記述の点検(ノート、ワークシート等)、定期考査		学習状況の観察(動物介在活動の様子、振り返りなど)、記述の点検(ノート、ワークシート等)、定期考査		予定
					70 時間
					実施
置賜農業育てる能力		①健康 ②自己肯定感 ③忍耐力 ④主体性 ⑤生命 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑧誠実 ⑨生きる力 ⑩知識技能 ⑪地域づくり ⑫実践奉仕 ⑬社会貢献			

令和8年(2026年)度年間授業計画表					
学年	3 年	学科	全学科	必選	選択C
教科	英語	科目	論理・表現 I	単位	2 単位
使用教材	MY WAY Logic and Expression I 三省堂				
学習目標	① 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況等に応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。				
	② コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。				
	③ 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。				
単元と内容					
1 学期	L.6 Traveling Abroad		買い物の会話、不定詞①		
			旅行先から友だちへのメッセージ、不定詞②		
	期末テスト		行ってみたい場所について発表をしよう		
2 学期	L.7 Sports 中間テスト		スポーツの試合についての会話、動名詞		
			車いす競技を紹介する発表、分詞の後置修飾、分詞構文		
	L.8 Everyday Technology		紙の本と電子書籍のよさについての会話、比較①		
			科学技術製品を紹介する記事の原稿、比較②		
	L.9 Take Care 期末テスト		病院での会話、関係代名詞①		
			健康についての発表、関係代名詞②		
3 学期	L.10 SDGs — Take Action! 学年末テスト		SDGsについての会話、関係副詞		
			SDGsについての発表原稿		
			仮定法		
			友だちに感謝のメッセージを贈ろう― Words of Thanks		
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技能	音声・句読法・単語や慣用表現・文構造や文法事項が身に付いている。 実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能が身に付いている。			
II	思考・判断・表現	日常的な話題や社会的な話題について文章を読み取り、概要や要点を把握することができる。伝える内容を整理し、英語で話したり書いたりして自分自身の考えなどを伝え合うことができる。			
III	主体的に学習に取り組む態度	英語や国内外の文化の違いに興味を持ち、その習得と理解に向けて意欲的に取り組むとともに実際に活用しようとする実践的な態度が身に付いている。			
評価 方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		年間時数
	語彙シート(学習前) 筆写シート(学習後) 定期テスト 実技テスト (音読・暗唱など)		定期テスト レポート パフォーマンステスト (発表)		予定
			授業の取り組み (ノート・プリント・ 発表練習・授業態度)		70 時間
					実施
置賜農業 育てる能力		④主体性 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑩知識技能 ⑪地域づくり ⑬社会貢献			

令和8年(2026年)度年間授業計画表					
学年	3年	学科	全学科	必選	選択C
教科	農業	科目	食品製造	単位	2単位
使用教材	食品製造 実教出版				
学習目標	① 食品製造に必要な知識と技術を習得させる。 ② 食品の特性と加工方法および貯蔵の原理を理解させるとともに、品質と生産性の向上を図る能力と態度を育てる。 ③ 食材の持つ特性や、様々な加工方法・品質の向上方法について学び、農業の振興や地域貢献に主体的かつ協働的ににとり組む態度を養う。				
単元と内容					
1 学期	第3章 食品の変質と貯蔵 (変質とその原因、貯蔵法) 第6章 農産物の加工 (穀類・果実の応用) 【実習】:応用的な果実加工(ジャム・ジュースの品質管理)、小麦粉加工(製麺・製パン)	食品が変質する原因(微生物、酵素等)を理解し、適切な貯蔵法の原理を学ぶ。			
		加工食品の種類や特徴、特に原料特性に応じた製造方法を深く理解する。			
		加工食品の種類や特徴を理解する。			
		果実(ジャム・ジュース)の原料特性、製造方法を理解し、安全に実習できるようにする。			
2 学期	第6章 農産物の加工 (畜産物・乳加工、農産食品の二次加工) 第7章 食品の包装と流通 【実習】:乳加工(アイスクリーム、チーズ等)、地域農産物を用いた新商品開発実習	農産物の加工原理について高度な理解を図る。			
		食品の包装技術や、生産から流通に至るまでの食品産業の特色と課題を学ぶ。			
3 学期	第8章 食品製造とHACCP (衛生管理、品質管理) 【実習】:総合実習、衛生管理シミュレーション	食品製造が食生活に果たす役割を再確認し、安全・安心な食品づくりのための衛生管理(HACCP等)を習得する。			
		3年間の学習を統合し、農業の振興や地域貢献に資する態度を固める。			
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技術	食品製造に関する基礎的な知識・技術を身に着け、製造実習において適切に実施することができる。			
II	思考・判断・表現	食品に関する知識思考を深め、製造品目ごとの適切な作業方法・品質管理などを的確に判断することができる。			
III	主体的に学習に取り組む態度	食品製造について関心を持ち、衛生面に配慮しながら意欲的に取り組むことができる。			
評価方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		年間時数
	授業時の観察		提出物		予定
	ノート・配布プリントの点検		授業時の発言		70 時間
	製造物の観察		ノート・配布プリントの点検		実施
置賜農業 育てる能力		①健康 ②自己肯定感 ④主体性 ⑤生命 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑨生きる力 ⑩知識技能 ⑪地域づくり ⑫実践奉仕 ⑬社会貢献			

令和8年(2026年)度年間授業計画表					
学年	3年	学科	全学科	必選	選択C
教科	農業	科目	測量	単位	2 単位
使用教材	農業測量 実教出版				
学習目標	①測量に必要な知識と技術を習得する。 ②測量の学習をとおして、農業や農業関連産業における課題を解決する力を身につける。 ③測量の学習をとおして、農業振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身につける。				
単元と内容					
1 学期	復習と測量実習 角測量	トータルステーションの据え付けと角度の観測			
		昨年度の復習とサーベイコンテストに向けた練習(平板、TS、UAV)			
2 学期	角測量 トラバース測量 衛星測位と基準点測量	方向角と鉛直角の測定			
		野帳記入と現地計算			
		トラバース測量の内業と外業			
		基準点測量の進め方、衛星測位による観測			
3 学期	地理空間情報 応用測量	地理情報システム			
		河川測量、森林・緑地測量			
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技術	測量に必要な知識と技術が身についている。			
II	思考・判断・表現	測量の学習をとおして、農業や関連産業における課題を解決する力が身についている。			
III	主体的に学習に取り組む態度	測量の学習をとおして、農業振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度が身についている。			
評価方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		年間時数
	学習状況の観察、 記述の点検 (ノート、ワークシート等) 定期考査		学習状況の観察、 記述の点検 (ノート、ワークシート等)、 定期考査		予定
					70 時間
					実施
置賜農業 育てる能力		①健康 ②自己肯定感 ③忍耐力 ④主体性 ⑤生命 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑧誠実 ⑨生きる力 ⑩知識技能 ⑪地域づくり ⑫実践奉仕 ⑬社会貢献			

令和8年(2026年)度年間授業計画表					
学年	3 年	学科	全学科	必選	選択C
教科	家庭	科目	フードデザイン	単位	2単位
使用教材	フードデザイン 実教出版				
学習目標	①栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解するとともに関連した技術を身につけるようにする。 ②食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ③食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインとの食育の推進に主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。				
単元と内容					
1 学期	第3章 食品の特徴・表示・安全 第6章 フードデザイン実習	様々な食品についてそれぞれの特徴を理解し、自分の食生活に生かすことができる。 調理上の性質や加工品を理解し、食事計画や調理に生かすことができる。 生産者と消費者が直接繋がる流通経路や食料供給と消費について考えることができる。 特別用途食品と保健機能食品について理解する。 これまで身につけた知識を調理に生かし、手際よく作ることができる。			
2 学期	第3章 食品の特徴・表示・安全 第4章 調理の基本 第6章 フードデザイン実習	食品の表示についての理解を深め、適切な選択をすることができる。 食中毒や衛生についての知識を深め、衛生と安全に配慮した調理ができる。 食品添加物の定義や種類について学び、自分の食生活に生かすことができる。 和食、洋食、中華それぞれの特徴を理解し、実習することができる。			
3 学期	第6章 フードデザイン実習 第7章 食育	これまで身につけた知識を調理に生かし、手際よく作ることができる。 子どもおよび高齢者のための料理について、調理上の配慮・調理法・調味について学び、それぞれの献立を考えて実習することができる。 食育の意義と課題を学び、その大切さを理解する。			
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技術	栄養、食品、献立、調理など、フードデザインに必要な要素を相互に関連付けて理解し、実践できる技術を習得している。			
II	思考・判断・表現	多面的に食生活の現状を捉えて思考を深め、食生活の充実向上を目指して自ら課題を発見するとともに、家庭や地域の実情に合わせてより豊かな食生活を創造することによって、課題を解決することができる。			
III	主体的に学習に取り組む態度	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとする。			
評価方法	観点Ⅰ	観点Ⅱ	観点Ⅲ	年間時数	
	ペーパーテスト 実技テスト 授業時プリント・実習ノート	ペーパーテスト 実習の様子 授業時プリント・実習ノート 献立作成	振り返りシート 授業プリント・実習ノート 授業の取り組み (座学・実習)	予定	
				70 時間	
				実施	
置賜農業 育てる能力		①健康 ②自己肯定感 ③忍耐力 ④主体性 ⑤生命 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑧誠実 ⑨生きる力 ⑩知識技能 ⑪地域づくり⑫実践奉仕 ⑬社会貢献			

令和8年(2026年)度年間授業計画表					
学年	3 年	学科	全学科	必選	選択D
教科	理科	科目	生物探究	単位	2単位
使用教材	高等学校 新生物基礎(第一学習社) スクエア最新図説生物(第一学習社)				
学習目標	①生物基礎及び農業科目との関連を図りながら生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、観察、実験を通して科学的に探究するための技能を身に付ける。 ②生物や農業にかかわる生物現象に対する疑問点を見出す力や、観察、実験を通して自らの考えを導き出し、表現する力を養う。 ③生命を尊重し、自然環境の保全や環境問題などを主体的に考える態度、およびそれらの課題解決に取り組む態度を育成する。				
単元と内容					
1 学期	1 生命現象と物質 (1)細胞と分子 (2)代謝 (3)遺伝情報の発現 2 生殖と発生 (1)有性生殖 (2)動物の発生 (3)植物の発生		・生物基礎の内容を振り返りながら、生物のからだを構成する細胞や物質についてさらに知識を深める。		
			・実験や観察については現象の観察だけでなく、定量的な分析ができるような技術や考察力を身につける。		
			・校地内の様々な動植物を活用し、農業科目の学習内容と関連させながら理解を深めていく。		
2 学期	3 生物の環境応答 (1)動物の反応と行動 (2)植物の環境応答 4 生態と環境 (1)個体群と生物群集 (2)生態系 5 探究活動 ・テーマ設定 ・実験・調べ学習		・校地内の様々な動植物を活用し、農業科目の学習内容と関連させながら理解を深めていく。		
			・プロジェクト学習や課題研究で取り組んでいるテーマに関連する分野において、研究を深めるための新たな手立てや課題を見つける。		
			・必要に応じて観察、実験などを行い、考察を加えてレポートを完成させている。		
3 学期	5 探究活動 ・プレゼンテーション資料作り ・発表		・学習の成果を発表する。		
			・他の人の発表内容について自分なりの考察を加える。		
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技能	・専門用語の意味、生物の事象・現象についての概念や原理・法則などを理解している。 ・科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている。			
II	思考・判断・表現	・自らの言葉で生物の事象・現象について表現できる。 ・自然の事象・現象から問題を見出し、見通しをもって観察、実験などを行い、分析した結果を適切に表現できる。			
III	主体的に学習に取り組む態度	・自然の事象・現象に主体的に関わり、見通しをもって学習に取り組むとともに、学習を振り返ることができる。			
評価 方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		年間時数
	定期テスト 小テスト 実技テスト 実験・観察レポートの内容 発表資料の内容		定期テスト 小テスト 実技テスト 口頭試問 実験・観察レポートの内容 発表資料の内容		授業態度・発言 実技テストの取り組み 授業プリントの取り組み レポートの取り組み 発表資料の取り組み 発表態度
					予定
					70 時間
				実施	
置賜農業 育てる能力		①健康 ②自己肯定感 ③忍耐力 ④主体性 ⑤生命 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑧誠実 ⑨生きる力 ⑩知識技能 ⑪地域づくり ⑫実践奉仕 ⑬社会貢献			

令和8年(2026年)度年間授業計画表					
学年	3 年	学科	全学科	必選	選択D
教科	芸術	科目	エンジョイミュージック	単位	2 単位
使用教材	MOUSAI 教育芸術社				
学習目標	① 音楽の多様性を理解し、創意工夫を生かした表現に必要な技術を身につけようとする。 ② 自己のイメージを持って表現し、評価しながら音楽の美しさを自ら味わうことができるようにする。 ③ 主体的・協働的に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育む。				
単元と内容					
1 学期	基本的な奏法と音楽の基礎 ①歌唱 ②ギター ③ピアノ ④理論 ⑤鑑賞		歌唱、ギター、ピアノの基本的な奏法を身につける。		
			音楽を構成する要素を理解する。		
			鑑賞を通して曲想を感じ取る力を養う。		
2 学期	音楽表現の工夫 ①曲想の理解 ②楽曲の選択 ③表現の工夫 ④アンサンブル ⑤進路に応じた音楽活動		楽曲の特徴や曲想を理解する。		
			自分のレベルや表現したい内容に応じて楽曲を選ぶ。		
			歌唱や器楽で奏法や表現を工夫する。		
			アンサンブルを通して表現を深める。		
			進路に応じた音楽活動にも取り組む。		
3 学期	音楽表現のまとめと発表 ①表現を深める ②発表に取り組む ③他者の表現の理解 ④学習の振り返り		これまでに学んだ内容を生かし表現を深める。		
			発表に向けて演奏を完成させる。		
			他者の表現を理解する。		
			学びを振り返る。		
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技能	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わりおよび音楽の多様性について理解している。			
II	思考・判断・表現	創意工夫を生かした音楽表現をするために、他者の意見も参考にしながら自らの考えを伝えることができる。			
III	主体的に学習に取り組む態度	主体的・協働的に表現および鑑賞の学習活動に取り組んでいる。			
評価方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		年間時数
	授業の取り組み 実技演奏発表 ワークシート 小テスト		授業の取り組み 実技演奏発表 ワークシート 小テスト		予定
					70 時間
					実施
置賜農業 育てる能力		②自己肯定感⑥他者理解⑦協調性⑨生きる力⑩知識技能			

令和8年(2026年)度年間授業計画表						
学年	3 年	学科	全学科	必選	選択D	
教科	農業	科目	果樹	単位	2 単位	
使用教材	果樹 実教出版					
学習目標	① 果樹の生産と経営について体系的・系統的に理解し、現場で活用できる技術を身に付ける。 ② 果樹の特性や栽培に適した環境を理解させ、本県における果実の生産と経営に関する課題を発見し、合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ③ 果実の品質と生産性向上を図る能力と態度を育成し、主体的に経営に向かう姿勢と他者と協働して研究に取り組む態度を養う。					
単元と内容						
1 学期	○リンゴ、オウトウ、ブドウ、ナシ、カキの生育と栽培管理 (春～夏の栽培管理) ・高品質果樹の生産方法 ・具体的栽培管理と技術 ・施設の利用のあり方		置賜地域の中心品目であるリンゴ、ナシ、オウトウ、ブドウ、カキの生育及び栽培管理について理解する。			
			春から夏にかけての栽培管理と技術の定着を図る。			
2 学期	○リンゴ、オウトウ、ブドウ、ナシ、カキの生育と栽培管理 (夏～冬の栽培管理) ・高品質果樹の生産方法 ・具体的栽培管理と技術 ・品種の選定と開園方法		気温・日照・降水量・風・土壌・水分・栄養等の環境条件が、果樹の生育にどのように影響するのかを調査し、本地域における栽培管理を理解する。			
			夏から冬にかけての栽培管理と技術の定着を図る。			
3 学期	○リンゴ、オウトウ、ブドウ、ナシ、カキの生育と栽培管理 (冬期間の栽培管理) ・高品質果樹の生産方法 ・具体的栽培管理と技術 ○1年間のまとめ		果実の生産性と着果習性について理解する。			
			整枝・剪定技術を習得する。			
評 価						
評価の観点		評価の趣旨				
I	知識・技術	果樹の生理・生態的な特性や生産及び生育環境を理解し、知識と技術を習得している。				
II	思考・判断・表現	果樹での学習成果を、主体的に分析、考察、評価してまとめることができている。				
III	主体的に学習に取り組む態度	果実の生産と経営に関する課題を発見し、日頃の学習と関連付けながら主体的に学ぶことができている。				
評価方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		観点Ⅲ	年間時数
	定期テスト 実習記録シート 観察(授業態度・服装)		定期テスト 実習記録シート プロジェクト活動の発表と報告書 観察(授業態度・服装)		定期テスト レポート プロジェクト活動の発表 観察(授業態度・服装)	予定
						70 時間
						実施
置賜農業育てる能力		①健康 ②自己肯定感 ③忍耐力 ④主体性 ⑤生命 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑧誠実 ⑨生きる力 ⑩知識技術 ⑪地域づくり ⑫実践奉仕 ⑬社会貢献				

令和8年(2026年)度年間授業計画表					
学年	3 年	学科	全学科	必選	選択D
教科	農業	科目	農業機械	単位	2 単位
使用教材	農業機械 実教出版				
学習目標	①農業機械について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 ②農業機械に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ③農業機械について特性を理解し、効率的な利用へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。				
単元と内容					
1 学期	第3章 トラクタ 1 乗用トラクタ 構造と性能、作業安全、点検 実技1 各車両の点検整備、乗用トラクタの運転操作 実技2 その他作業機械の運転操作 【定期テスト】		・農業機械の特徴や役割の理解		
			・乗用トラクタや各種作業機械の構造と運転操作		
			・各車両、作業機械の点検整備		
2 学期	2 歩行用、乗用トラクタの運転操作(発展) 内燃機関や電動機の仕組みと調整 実技3 トラクタ、その他作業機械の運転操作 第4章 作業機 耕うん・整地・育成・管理機械 実技4 トラクタアタッチメントの種類と操作 【定期テスト】		・乗用トラクタの構造と運転操作(けん引等)の学習		
			・電動機の原理、構造の理解		
			・耕うん・整地・砕土・育成・移植・収穫機械		
			・各種アタッチメントの構造と操作		
			・各種農業機械の構造と取り扱い		
3 学期	第5章 農業機械と安全 1 農業機械の整備・安全に関する法規 農作業による事故の実態、安全な操作 実技5 各種作業機械の点検、整備、その他作業機械の運転操作 【定期テスト】		・農作業による事故の実態を理解する		
			・作業安全を理解する		
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技術	各種農業機械の操作、点検等について理解しており、農業機械を用いた作業を安全に行うことができる。			
II	思考・判断・表現	各種農業機械を用いる際の危険や課題を発見し、効率的な農作業に寄与できるよう合理的かつ創造的に思考、判断し、他者に伝えることができる。			
III	主体的に学習に取り組む態度	各作業、運転操作等を安全に行うことができるように主体的に取り組んでいる。			
評価方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		年間時数
	定期テスト 実技テスト		授業時の発言、発表		予定
					70 時間
					実施
置賜農業育てる能力		②自己肯定感 ④主体性 ⑤生命 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑨生きる力 ⑩知識技能 ⑪地域づくり ⑫実践奉仕 ⑬社会貢献			

令和8年(2026年)度年間授業計画表					
学年	3 年	学科	全学科	必選	選択E
教科	数学	科目	数学A	単位	2 単位
使用教材	教科書:高校数学A (実教出版) 副教材:スタディノート数学A (実教出版)、サブノート数学A (実教出版)				
学習目標	①図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 ②図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を養う。 ③数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。				
単元と内容					
1 学 期	1章 場合の数と確率				
	1節 場合の数		集合、場合の数、順列、組合せ		
	2節 確率 (期末テスト)		いろいろな確率、期待値		
	2章 図形の性質				
2 学 期	1節 三角形の性質		三角形の角、線分の比、五心		
	2節 円の性質 (中間テスト)		円周角、四角形、接線、方べきの定理		
	3節 作図		いろいろな作図		
	4節 空間図形 (期末テスト)		直線と平面、多面体		
	3章 数学と人間の活動				
3 学 期	1節 数と人間		数の歴史、2進数、整数の性質		
	2節 図形と人間		面積、高さ、図形パズル、座標		
	自主トレーニング (学年末テスト)				
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技能	○図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ○数学と人間の活動の関係について認識を深めている。 ○事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。			
II	思考・判断・表現	○図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を身に付けている。			
III	主体的に学習に取り組む態度	○数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ○問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。			
評 価 方 法	観点Ⅰ		観点Ⅱ	観点Ⅲ	年間時数
					予定
	授業の取組(ノート、プリント) 小テスト、定期テスト(計算)		授業の取組(発表) 定期テスト(記述)	授業の取組(発言・態度) 課題の取組(創意工夫)	70時間
					実施
育てる能力		③忍耐力 ④主体性 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑧誠実 ⑨生きる力 ⑩知識技能 ⑬社会貢献			

令和8年(2026年)度年間授業計画表					
学年	3年	学科	全学科	必選	選択E
教科	農業	科目	食品流通	単位	2 単位
使用教材	食品流通 実教出版				
学習目標	農産物や農産物を原料とする食品の流通に必要な知識と技術を習得させ、食品の特性と流通構造を理解させるとともに、食品の流通と管理の合理化を図る能力と態度を育てる。				
単元と内容					
1 学期	第1章 現代生活と食品流通 ①流通の始まりと発展 ②流通の働き ③食品流通の役割 第2章 経済活動と食料 ①経済発展と食料消費 ②世界の食糧事情 ③日本の食生活と食糧需要 ④私たちをとりまくフードシステム		1)食品・流通への興味関心を高める。		
			2)食品流通における安定性、安全性、効率性を理解する。		
			3)日本の食糧消費の特徴を知る。		
2 学期	第3章 食品流通のしくみと働き ①食品流通の特徴 ②食品流通のしくみ ③価格形成と流通経費 第4章 おもな食品の流通 ①米の流通 ②麦の流通 ③青果物の流通 ④畜産物の流通 ⑤加工食品の流通		1)循環型社会という概念を知る。		
			2)食品ごとの流通経路の在り方を理解する。		
			3)価格決定のしくみを理解する。		
			4)各種農産物出荷組織の実態を理解する。		
3 学期	第5章 食品品質と規格 ①食品の品質と安全性 ②品質と品質保証 ③規格、表示と検査 ④食品流通と包装 ⑤食品の変質と品質保持		1)食品の質と安全性を保つ法的システムについて理解する。		
			2)食品の包装材の環境の関係を学ぶ。		
			3)食料生産と食料輸入の動向を理解する。		
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技術	食品流通に関する基礎的な知識を身に付け、理解を深めることができる。			
II	思考・判断・表現	食品流通に関する知識思考を深め的確に判断することができる。			
III	主体的に学習に取り組む態度	食品流通において、様々な資料や情報を収集し、適切に実施することができる。			
評価方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		年間時数
	行動の観察 ノートの点検		行動の観察 ノートの点検		予定
					70 時間
					実施
置賜農業 育てる能力		①健康 ②自己肯定感 ③忍耐力 ④主体性 ⑤生命 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑧誠実 ⑨生きる力 ⑩知識技能 ⑪地域づくり ⑫実践奉仕 ⑬社会貢献			

令和8年(2026年)度年間授業計画表					
学年	3 年	学科	全学科	必選	選択E
教科	農業	科目	農業土木施工	単位	2 単位
使用教材	農業土木施工 文部科学省				
学習目標	① 農業土木工事の諸工法について、基礎的な知識と技術を理解する。 ② 土工・基礎工などの理解のために、土の基本的な性質を理解する室内試験を行う。 ③ 工事の管理や法規を学ぶとともに、農業土木施工に係るいろいろな施工技術の方法を身に付ける。				
単元と内容					
1 学 期	第5章 第2節 土工 第1 土の基本的な性質 第2 土工計画の基本 含水比試験・粒度試験等 第4節 基礎工 第1 基礎工の種類と特徴 第2 基礎地盤の支持力 第6節 水路工 第1 開水路工・管水路工 〈定期テスト〉		・ 土工の基礎データを取るための各種室内土質試験を行う。		
			・ 諸工事の進め方とそれにあった工法について理解する。		
			・ 基礎工・水路工を理解する。		
2 学 期	第5節 道路工 第1 アスファルト舗装 第2 コンクリート舗装 第8節 植栽工 第1 植栽工事の計画・設計 第3 法面の植栽工 第9節 第1節 ダム工 第4節 橋梁の施工 〈定期テスト〉		・ 農業土木施工における植栽工事の計画と施工、管理について理解できる。		
			・ アスファルトやコンクリートの舗装について基礎的知識と計算、技術面の説明ができる。		
			・ 各種工法について、理解できる。		
			・ 農業土木施工における工事の運営管理について、意欲的に取り組んでいる。		
3 学 期	第6章 農業土木施工の実践 第1節 農業土木施工の実践例 〈定期テスト〉		・ 農業土木施工における工事の実践を学び、運営管理の方法について理解できる。		
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技術	土木施工技術の基礎となる各種室内試験を体得するとともに、環境保全に配慮した工事について考える技能を身に付けている。			
II	思考・判断・表現	SDGsの観点から私たちの周りにある環境問題や課題について学習し、問題解決策を考えることができる。			
III	主体的に学習に取り組む態度	土木工事の現状や今日的な課題などについて関心をもち、意欲的に取り組んでいる。			
評 価 方 法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		年間時数
	学習状況の観察 記述の点検(ノート、実験 データシート等) 定期考査		学習状況の観察(発表等の パフォーマンスの評価) 記述の点検(ノート、実験 データシート等) 定期考査		予定
					70 時間
					実施
置賜農業 育てる能力		①健康 ②自己肯定感 ③忍耐力 ④主体性 ⑤生命 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑧誠実 ⑨生きる力 ⑩知識技能 ⑪地域づくり ⑫実践奉仕 ⑬社会貢献			

令和8年(2026年)度年間授業計画表					
学年	3 年	学科	全学科	必選	選択E
教科	保健体育	科目	スポーツⅣ	単位	2 単位
使用教材					
学習目標	①ダンスの楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするために技能を身に付けるようにする。 ②生涯にわたって人生を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 ③様々な経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。				
単元と内容					
1 学 期	創作ダンス	楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするために技能を身に付けるようにする。			
2 学 期	創作ダンス	楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするために技能を身に付けるようにする。			
3 学 期	創作ダンス	楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするために技能を身に付けるようにする。			
評 価					
評価の観点		評価の趣旨			
I	知識・技能	技能を身につけ、体の動かし方が理解できる。			
Ⅱ	思考・判断・表現	課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断し、他者に伝えている。			
Ⅲ	主体的に学習に取り組む態度	学習に主体的に取り組もうとしている。			
評価方法	観点Ⅰ		観点Ⅱ		年間時数
	授業時の観察		授業時の観察		予定
					70 時間
					実施
置賜農業育てる能力		①健康 ②自己肯定感 ③忍耐力 ④主体性 ⑤生命 ⑥他者理解 ⑦協調性 ⑪地域づくり ⑫実践奉仕 ⑬社会貢献			